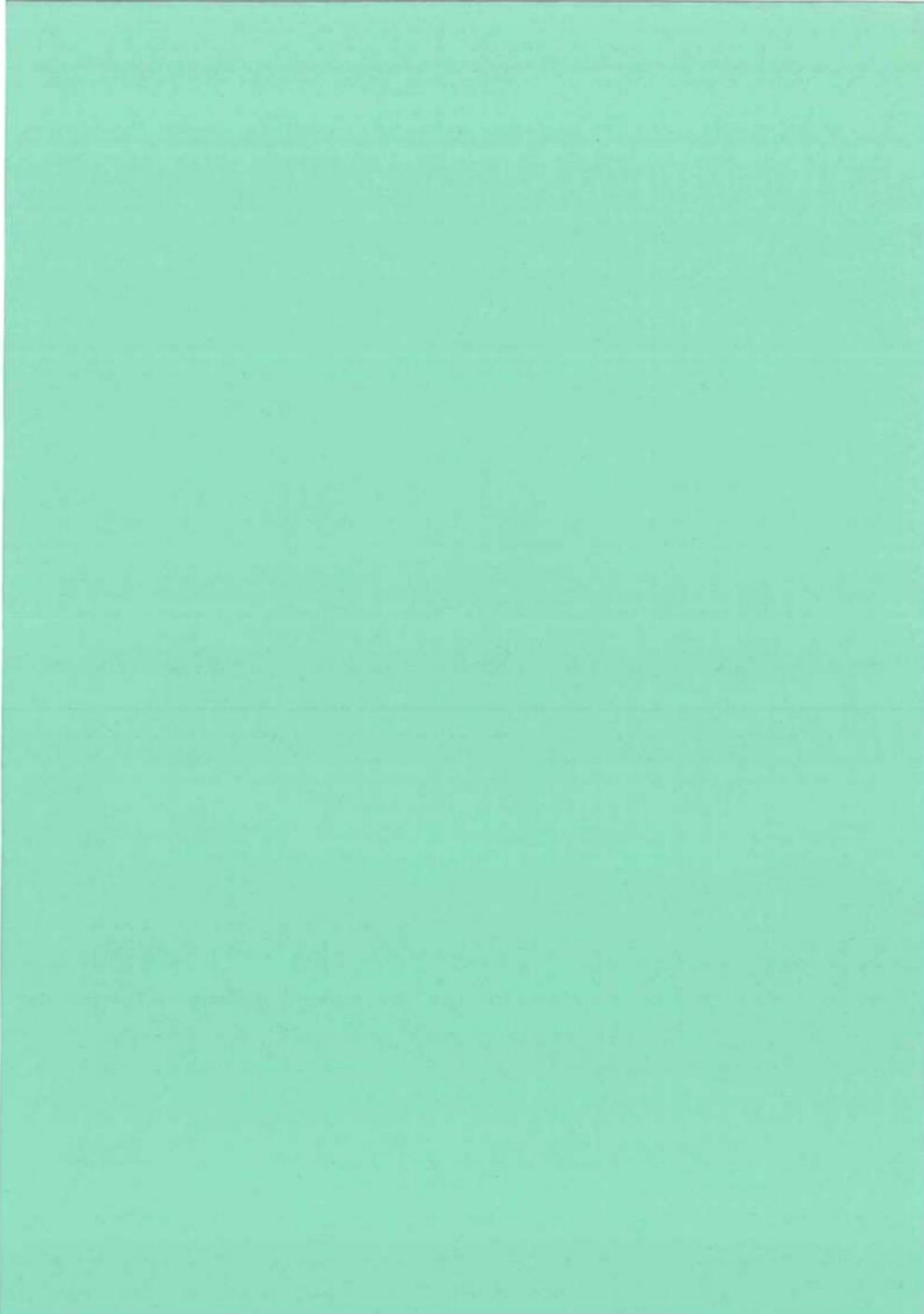


島本町立歴史文化資料館 館報第1号



平成21年12月

島本町立歴史文化資料館



はじめに

平成20年3月に開業したJR「島本」駅の東口に降り立ちますと、広々とした静かな光景が目にされます。北側にはクスノキがおい茂る国史跡「桜井駅跡」があり、駅前ロータリーを挟んで南側には当資料館があります。住民の皆様の期待を集めて、同年4月12日に開館いたしました。建物は、昭和16年に史跡「桜井駅跡」の拡張整備事業の一環として建てられた旧「露天館」です。開館に向けてできるだけ当時の様子を遺しながら改修いたしました。入母屋造りの大きな瓦屋根。それを支える檜の柱、高い天井からは透明球のガラス覆いの電灯が20個吊り下がっており、昭和初期の木造建築の中で、ほっとした気分を味わっていただくことができます。

さて本館は、「郷土を中心とした歴史、考古、民俗等に関する資料を展示し、及びその活用を図り、住民の郷土理解と文化的向上に資するため」(島本町立歴史文化資料館設置条例)に設置されました。JR「島本」駅・阪急「水無瀬」駅からも近く、立地条件の良さもあり町外からの来館者も多く、1年間で約1万5000人の方々に来館していただきました。ここを出発点として島本町の歴史や文化に興味を持つていただき、史跡を巡る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、開館にあたりましては近隣の博物館、資料館などの学芸員・研究員の皆様には貴重なご助言とひとかたならぬご協力を賜り誠にありがとうございました。また、貴重な資料のご寄贈、ご寄託、資料調査等のご協力をいただいた地域の皆様に厚くお礼申しあげます。

今後とも、「郷土の歴史、文化、自然との理解」「参加・交流による人のつながり」の2点を大切にして、資料の収集と整理、展示の充実・工夫及び催物の開催に向けて職員一同で努力をしてまいります。皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

平成21年12月

島本町立歴史文化資料館
館長 大西 健治

目 次

はじめ	1
開館記念事業	
開館式典	3
開館記念講演 「天平の時代と鳥本」講師 水野 正好 氏	3
開館記念コンサート	5
展示	
常設展 「ひと・もの・みち」	6
教育週間企画展 「吉田初三郎としまもと」	7
新春企画展 「郷土かるた原画展」	8
民具・農具展 「むかしのくらし」	8
講演	
「関西の地勢と湊川の戦い」講師 田辺 真人 氏	8
教育週間特別講演	
「摂津の古代寺院と瓦」 講師 森 郁夫 氏	9
追悼 一奥村 寛純先生を偲んで一	10
事業報告	
資料館催物一覧	11
夏休み子ども教室 講師 中村 卓二 氏	11
日誌抄録	12
利用状況	13
(寄贈・寄託)	
受入れ図書	13
受入れ図書	14
条例・規則	
	16

開館式典

平成20年4月12日（土）午前10時より



90名の皆様の参加のもとに開館式典が厳かに執り行われました。はじめに島本町 川口町長、島本町議会 平井議長、島本町教育委員会 星野教育長、大阪府教育委員会文化財保護課長 富尾 昌秀氏の4名の皆様によりテープカットを行いました。



次に、主催者挨拶として島本町長、来賓祝辞として町議会議長、大阪府教育委員会文化財保護課長様より、温かいお祝いや励ましのお言葉を賜りました。祝電披露に続き、「おとくに雅楽会」の皆さんによる舞楽「蘭陵王」を、雅楽の演奏とともにめでたくも力強く舞っていただきました。そのあと資料館の展示概要説明と見学・案内をさせていただき、式典終了後、11時30分より一般公開といたしました。

開館記念講演 「天平の時代と島本」

平成20年4月19日（土）

講師 水野正好氏



今日は、古い時代から天平時代までの島本町の様子をお話したいと考えております。古い時代は都が大和にあり、平城京の前は藤原京。その前は飛鳥京。より古い4世紀の頃は「上ツ道」「山辺の道」沿いに都が見られ、天皇の陵墓も作られています。同時期に高槻市に弁天山古墳、乙訓郡に恵解山古墳。向日市に元稲荷古墳、山城町に椿井大塚山古墳といった皇族の古墳があります。これらの墓は130m～250mもある大きな盛土の墓です。当時、難波津と大和を結ぶ淀川水系が大切にされていたのです。鎌倉～江戸時代も物資を運ぶときに浅い大和川では運びにくいので、淀川・木津川を使っていました。淀川が大きな意味を持っていました。ところが変化が生まれます。4世紀末、日本は新羅との戦いに勝ち、貢物として大量の馬や鉄が来ます。この馬で交通体系が一挙に変わります。馬により運搬、情報の伝達スピード化が計られ「馬の道」にふさわしい直線道路が作られます。上町台地には道路の整備が完成し、応神・仁徳・孝徳・聖武天皇の都が移ってきます。大阪の上町台地の先端・天満八軒屋に迎賓館が造られ、中国・朝鮮半島の使節を迎えていました。都が上町台地に造られると天皇の

陵墓も大阪へ移ってきます（古市・百舌鳥古墳群）。淀川水系よりも大和川水系や道路網が新たに使われ奈良への道になるのです。天皇の政策によってこのように変化するのです。4世紀前半、摂津三島、山城乙訓に古墳群が造られます。4世紀後半から5世紀には古市・百舌鳥古墳群や玉手山古墳群が急速に生まれます。しかしこの島本町には古墳はほとんどありません。これ大事なことです。ないと言うことが大事なのです。なぜか。それはこの地が「公」的な地、国家が直接管理する「淀川渡船・渡橋」の地であり港津の地として、また山陽道・西国道など諸道合流の交通の要所として国家が管理する地、豪族には任せられない地であったからです。

茨木市に繼体天皇陵とされる大古墳があります。江戸時代、繼体天皇陵に定められましたが調べると繼体天皇の時代より100年古くなり、違うことが判りました。今では高槻市の今城塚古墳が相応しいとされています。この繼体天皇は6世紀淀川水系を再開発して三川合流の場所に都を作りました。楠葉、綏喜（筒城）、乙訓宮がそれです。この時代が一番大事な時代ですね。この島本町は摂津国的一条一里の地です。山崎橋、山崎の渡しなど皆並びます。交通が多く、人々の一番駅やかなこの南北・東西の道がある。奈良から人は田辺の山裾を通り、大阪の人は交野の山裾から枚方へ出て淀川を渡る、国家の最も大事な道が再び息づいたのです。そういうところには墓は造らないのです。私的な目的には使わないので。この山崎の駅には、30匹の馬が常備されていたといいます。こうした事実を挙げますとこの地の大しさがわかります。宇治には有名な平等院があります。その向かいに宇治の大橋が架かっています。この橋を架けた方は道登上人、その橋が流された後再架橋したのは飛鳥寺の道昭上人です。川の水量は多く、橋のない時は溺死する人が多く、人々は苦しんでいました。道登、道昭はそうした人々の苦しみに対応した宗教家でした。これによってたくさん的人が助けられ喜んでいる。道昭は遣隋使として中国に渡り、三藏法師の許で学んでいます。法師は道昭を見て、素質を見抜き彼を重用します。後繼者にしたいと考えていたようです。天皇が送った遣唐使が日本に帰国するよう要請し、道昭は玄奘三蔵に伝えます。法師は自分が訳した經典の全てを一部づつ彼に渡し日本に持ち帰らせます。師の玄奘は日本に初めての正しい訳をもつ経を託し、天皇は驚喜します。三蔵は、仏教は人を救済するためにあると考え、写經事業の他に福祉事業を積極的に展開します。その姿を見て帰国した道昭も同様、写經や救済事業に精を出します。この道昭の弟子が行基菩薩です。天平の時代は華やかな時代ですが、一方には食にこと欠く人、疫病に苦しむ人がたくさんいました。そうした人々に呼びかけ淀川の改修工事や架橋工事、港の整備、橋・開田や灌漑こうした事業に入々と共に取り組みます。人々は菩薩として彼を崇めます。行基菩薩にとって、救済事業は仏教的な大土木事業に支えられて進められていくのです。聖武天皇が行基菩薩の活動を聞き、素晴らしい人ではないかと思い、インドから来ていた菩提僧行基（せん）上人や高僧良弁とも相談、行基に恭仁（くに）京の前に流れる木津川に橋を架けるように依頼、体の悪い人たちも加わり土を運び、木を引かせて、行基は寄進財と人々の協力でこれを完成させるのです。天皇はそうした人々の姿を見て感激し財力はあっても、仏教を押し進めてそうした庶民は救えない、病気の人も救えないのに、ひとりの僧でしかない行基が万人の心を掴んで悠然と架橋していく、その聖なる心により集まる人々の想いに感動するのです。後に奈良の大仏を铸造しようと決心した時、聖武天皇は「天下の富は我にあり、天下の勢い我にあり。され

ど大仏を造るにあたってはこれを国民に訴え国民の力を得て大仏を造りたい」と詔しました。行基菩薩にとって大仏鋳造よりも大切なことは多くの苦しむ民を救うことですから、そうした人と共に大山崎・島本に山崎橋、山崎の渡しを作るのです。道昭の橋が流れたといっては、行基はそれを宇治川で再興する。そしてその橋の口には阿弥陀を祀る仏堂を建てます。山崎には山崎院が造られます。数年前、大山崎で発掘しましたら寺堂の跡から壁画片がいくつも出ました、あの山崎院です。行基の後こうした活動が広がり、この地域が東大寺の莊園（水無瀬莊）になります。東大寺にとってはこの地は非常に大切な莊園です。東大寺に必要な銅や米塩、木材、布などが運ばれる。運船がこの莊園の港に着くのです。天皇領であります。東大寺造営、大仏殿建立と言う度に東大寺に大きな影響を与える地なのです。対岸の「楠葉の渡し」も河内の人たちにとっては、舟で渡る重要な地であったわけです。高槻の金龍寺に詣でて西方淨土に赴く夕陽を眺め、枚方中宮、渚の百濟王家の華やかな女性の活躍や異国への光を河面に映しながら船の通う大事な場所だったのです。大阪、京都、奈良、滋賀を結ぶ大河を目の前にしたこの島本の町は古代の経済・文化の大切に息づく場所であったといえるのです。この地域の文化や景観を大事に守りその情緒溢れる町として生き続ける方策が今後もとられるよう皆様にお願いする次第です。ご静聴ありがとうございました。

開館記念コンサート

平成20年5月18日（日）午後2時より



「カルテット ヴォルフィ」の皆さんをお迎えして、弦楽四重奏の調べで新緑の午後のひと時を過ごしていただきました。「カルテット ヴォルフィ」は、京都市立芸術大学音楽学部教授で日本を代表するヴァイオリニストでもある久合田 緑さんを中心として、セカンドヴァイオリニン 池川 章子さん、ヴィオラ 大西 秀明さん、チェロは飯田 精三さんと様々な経歴をお持ちの3人の奏者が集まって結成された弦楽四重奏団です。

演奏曲目は、モーツアルトの弦楽セレナード ト長調 K525「アイネ クライネ ナハトムジーク」と、ドヴォルザークの弦楽四重奏曲 へ長調 作品996「アメリカ」でした。著名な演奏家による演奏と開館記念ということもあって204名もの皆さんに来館していただきました。準備した椅子だけでは到底間に合わず、多くの方々に立って聴いていただくことになり申し訳なく思いました。

アンケートには、非常に好評で今後もコンサートの継続を希望する声がたくさんありました。音楽向けに作られた施設ではありませんが、「木造で天井が高く、吊るし電燈など古風な雰囲気が洋楽にもよく合っていた」「演奏者と聴衆の距離が近くて親しみやすく聴けた」「静かで建物にマッチした趣深いコンサートで心が安らぎました。」等の有難い感想をいただき、開館記念事業としてのコンサートを盛大に終えることができました。

展示

常設展 「ひと・もの・みち」

島本町は、京都府と大阪府の境に位置し、桂川、宇治川、木津川の三川合流の地にあります。町の中心を西国街道が通り、古来水陸の交通の要衝として栄えてきました。当資料館は、このような背景を中心に「島本と西国街道 - ひと もの みち - 」をテーマに展示を薫めてまいります。

常設展では、山城との国境より隣接する高槻市までの3.2キロの西国街道を中心に各地区にある町の文化財にスポットをあてパネルでコーナー毎に紹介しています。

島本町の豊かな自然と文化、そして歴史をお楽しみいただければ幸いです。



開館時間 午前 9 時30分～午後 5 時

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日休館）

12月29日～1月 3 日

特別展準備期間

教育週間企画展

平成20年11月1日（土）～平成20年12月28日（日）

「吉田初三郎としまもと」『桜井周辺図』修復完成記念



現在の資料館の建物である「麗天館」は、昭和16年に国史跡桜井駅跡の記念館として建てられました。それと同時に史跡桜井駅跡・楠公道路を中心とする鳥瞰図を鳥瞰図絵師である吉田初三郎氏によって「桜井周辺図」が描かれました。その「桜井周辺図」をこの度修復し、多くの来館者に実物の鳥瞰図を見ていただくことを目的として企画しました。

また、その他にも吉田初三郎氏の作品を集め、ユニークな描写や初三郎氏が活躍した時代背景や昭和天皇（当時皇太子）とのエピソードを紹介しました。

初三郎氏の作品の多くは、ひとつの地域を中心に画面一杯に広い地域を描かれており、本来ならば描かれないと登場して、見る人の目を惹きつけました。



展示資料一覧

資料名	所蔵
桜井周辺図	島本町立歴史文化資料館
島本町大山崎村鳥瞰図	島本町立歴史文化資料館／周字屋
島本町観光案内パンフレット表紙	島本町立歴史文化資料館／周字屋
大阪府交通図	国際日本文化研究センター
日本鳥瞰近畿東海大圖繪	国際日本文化研究センター
電気大博覽会会場前景絵図	国際日本文化研究センター
新京阪電車デ京都ヨリ大阪ヘ	向日市文化資料館
沿線御案内新京阪電車パンフレット	向日市文化資料館
都ホテルを中心とする洛内外居所交通鳥瞰図	個人

新春企画展

・「郷土かるた原画展」



「しまもとの郷土かるた」原画展は、昭和59年に郷土かるた作成委員会と切り絵作家、郷土史家の協力を得、作りあげた「しまもとの郷土かるた」を多くの来館者に紹介することを目的に開催しました。「しまもとの郷土かるた」は、島本の豊かな郷土を文化・風習など多分野にわたり、かつ素朴にまとめ、また織細で美しくひとつひとつ丁寧に手掛けられた切り絵で表現されています。この度の展示では、絵札全45枚のうち「い」「ろ」「は」「に」「ほ」「へ」「と」の計7枚の原画を展示し、このかるたの原画を通じて島本の歴史や文化・民俗に触れていただきました。



民具・農具展

・「むかしのくらし」

平成21年1月21日（水）～平成21年3月1日（日）

「むかしのくらし」展では、田起しから収穫までの農作業の流れを実際に使用されていた農具・民具を展示し、パネル等で解説を行いました。また、町内全4校の小学3年生の社会科単元に、島本町の「むかしのしごとくらし」を学習する時期であり、各小学校の児童が学習見学に来館されました。資料館職員の説明を受け、足踏み脱穀機や唐箕・縄ない機に触れ、積極的に質問するなど、活き活きとした子どもたちの様子が伺えました。



講演 「関西の地勢と湊川の戦い」

平成20年10月25日（土）

講師 田辺眞人氏



私は歴史や比較文化論を勉強しております。島本町にお呼びいただき光榮に思っています。どうして、楠木正成が湊川で戦いをすることになったのか。地理的、地勢的にお話をいたします。お手元の資料を見ながら話を進めます。歴史の中ですね、1300年前から関西は日本の中心だったわけです。近畿の「畿」というのは首都圏。首都圏内を「畿内」といっておりました。明治になって、従来の畿内近くに置かれた府県をあわせて近畿と呼んだわけです。日本の歴史の中でもっとも大事な地域でございました。この地域

の中心に平安京つまり京の都がございました。

さて、法律による全国一元の政治を実現しようとする政治改革、つまり大化の革新の結果、律令国家が完成し、国は畿内から七つの国道とでもいべき七道を整備しました。七道には駅（うまや）や関（せき）を置きました。国道一号とでもいるべき山陽道が都から瀬戸内を通って、西国さらに中国に通じる最重要交通路でした。平安時代、京の都からつまり京都盆地からこの道が出ていく地点が山崎・天王山麓で、ここは都の西の関門でした。東では京都盆地から近江盆地への通路、逢坂山が東の関門でした。山崎から西南へ、大阪平野を斜めに横切った山陽道は、西宮あたりで瀬戸内海々岸部に outsます。その西、芦屋から神戸市旧市街地一帯は、大阪湾岸の海岸線と、平行して走る六甲山地に挟まれた通路状の地形で、これを須磨で通り過ぎると、畿内（首都圏）の摂津が終り、須磨の国に入るのです。神戸の旧市街地の山と海に挟まれた通路は首都圏の西の関門になっていました。都の東では、逢坂山の都の東門を出た交通路が近江盆地を通り過ぎ、伊吹山の南麓—伊吹山地と鈴鹿山地との間の谷筋一で、首都圏の東の関門に行きつくとの似ています。都の東西（逢坂山と山崎）、首都圏の東西（関ヶ原と神戸）という、東西2つづつ、合計4か所の関門を考えていたらしく、湊川の戦い、つまり楠公さんが神戸で戦った理由が解ると思います。九州から、つまり西方から都に進攻しようとする足利尊氏の軍勢を途中で食い止めるには神戸か山崎で戦うのが最も効果的だったわけです。足利軍は水・陸両軍でしたから、それが合流しようとする瀬戸内海航路東端の港という意味からも、兵庫の津がある今の神戸市の場所が決戦の地に選ばれたわけです。これが、湊川の戦いが行われた理由ですが、神戸では、古代から中世への転換期に一の谷の戦いがあり、中世から近世への転換期にも、織田と毛利の戦い—摂津の花隈合戦と播磨の三木合戦がありました。中世前期と中世後期の転換期に起こった湊川の戦いを、このように地勢の上から考えるのも興味深いテーマです。どうもご静聴ありがとうございました。

教育週間特別講演 「摂津の古代寺院と瓦」

平成20年11月16日（日） 講師 森 郁夫 氏

島本町は古代から重要な水・陸運の要衝であります。古代の寺院はありませんが、鈴谷瓦窯があり古い時代の瓦が島本で生産されました。摂津国で7世紀後半まで営まれた寺は15ヶ所、ほとんどが重要な交通路に沿って営まれております。7世紀前半に営まれた寺に四天王寺がございます。文献史料では玉造の地に営まれ、後に移されたとあります。斑鳩は、大和盆地を流れる河川が大和川となって河内に流れ込む重要な土地であります。そこが、島本の地と大変よく似ているわけです。当時の朝廷はそれに着目し、聖徳太子を斑鳩に送り込み、太子は斑鳩宮を営まれ仏教を広められます。この地が交通の要衝であればこそ、高い文化を取り入れた寺院を造ろうとお考えになったのです。四天王寺が何処にあったか、やはり玉造の地ではと考えたくなります。上町台地は難波宮が営まれ、前期難波宮の下層からたくさんの中古瓦が出土しています。これは四天王



寺から出土するものと同じです。瓦を作るときは木型を彫ります。その木型が丈夫であれば何百・何千枚も同じ型の瓦ができ、この同文様を検討しますと寺の事情が分かってきます。実は同文様瓦が法隆寺からも出土しています。法隆寺再建、非再建の動きがありましたが、昭和14年の調査の結果、再建されたものだと分かりました。この調査で出土した瓦をみると、法隆寺若草伽藍で使われた瓦が先行し、四天王寺で使われた瓦が後になります。ですから斑鳩に太子を送り込んで基地を作り、次に摂津に新たな基地を作る。大化の改新後、都を難波に移し摂津国は新しい文化が入る重要な港と考え、すでに建立された四天王寺を移したと考えざるをえないのです。前期難波宮下層に瓦を使った建物があったことから、前期難波宮以前に四天王寺があったと固く信じておるわけです。第1回目の遣隋使が600年に派遣され(教科書では607年)それ以後中国文化が取り入れられました。寺を建てるには大きな力と技術が必要です。日本に最初に寺を作る技術を持ち込んだのは百濟でした。しかし当時朝廷が仏教を受け入れる段階ではなく、蘇我氏に預けられ結果大きな権力を持つのです。出土する瓦には非常に高度な情報が詰められています。他所で蘇我氏が建てた飛鳥寺と同文様瓦が出土し、また太子の斑鳩寺と同文様瓦が出てくる遺跡があります。朝廷が管理する寺で使用された瓦が出土するのは政権中枢部から技術提供を受けていたと考えられ、寺造りの背景に政治的な動きを感じられます。寺は宗教施設であり、先進文化の受け皿であると同時に防御施設ですから、交通の要所に建てられ、その豪族は政権に近づき新しい文化をもらいます。7世紀後半には寺造りが盛んになり、鎮護国家思想が高まります。天武天皇は仏教の力で国家体制を固めようとお考えになりました。壬申の乱が再び起きては困る、そんなことをしていたら朝鮮半島や中国大陆に連れる、律令国家を作らなければとお考えになりました。いくつかの事件がありましたが、701年、ようやく大宝律令ができました。持統天皇6年に数えましたら545ヶ寺もの寺がありました。これは天武天皇の国家体制を固める強い意思であったに違いありません。この摂津の地でも数多くの寺が建てられるのは、7世紀後半頃、鎮護国家思想のもとに我が國が律令国家に向けて邁進している、非常に活気のある時代であったからだと考えております。

追悼 ー奥村 寛純先生を偲んでー

館長 大西 健治



永年に亘り親しくご指導を仰いだ奥村寛純先生が鬼籍に入られて、早や半年が経ちました。先生は伏岡舍郷土玩具資料館を運営される傍ら「郷土島本研究会」を主宰され、島本町に関する多くの論文や著書を世に出されました。特に、昨春の島本町立歴史文化資料館正式開館前後には博学多識で温厚な先生のお人柄を慕い、何度も質問攻めでご自宅に伺わせていただきました。その折は、いつも優しく丁寧に応対して下さいり、先生の深い蘊蓄に耳を傾けるのが訪れた者の楽しみでもありました。今となっては、もう先生に直接お話を伺いすることもできなくななり、先生の遺された資料を活用させていただくことが多いのですが、そのときはいつも在りし日の優しく微笑んでおられる先生のお姿が勢解としてきて、自然と心が和んできます。

事業報告

平成20年度 歴史文化資料館催物一覧(教育委員会主催)

日 時	催 物	参加人数
4月12日 (土)	開館式典	90人
4月19日 (土)	開館記念公演「天平の時代と島本」講師 水野正好氏 (大阪府文化財センター理事長・奈良大学名誉教授)	84人
5月18日 (日)	開館記念コンサート「カルテット・ヴァルフィ」弦楽四重奏	204人
6月15日 (日)	コンサートvol.2 「ゆりの花コラース」	76人
7月13日 (日)	コンサートvol.3 「ザ・サウスパークリング」ブルーグラス	42人
8月10日 (日)	コンサートvol.4 「ギター演奏 田中慎氏」クラシックギター独奏	52人
8月21日 (木)	夏休み子ども教室「桜井周辺の植物観察・採集」中村卓二氏	7人
9月14日 (日)	コンサートvol.5 「K・スクウェア」マリンバとシンセサイザー	130人
10月5日 (日)	コンサートvol.6 「花音(カノン)」デュエット	95人
10月25日 (日)	「講演と歌の集い」講演 田辺眞人氏 コーラス「楠公歌の会」と「第三小学校PTAコーラス」	140人
11月16日 (土)	教育週間特別講演「摂津の古代寺院と瓦」 講師 森郁夫氏(帝塚山大学教授)	57人
12月21日 (日)	コンサートvol.7 「ギター演奏 加治川岳氏」 クラシックギター独奏	56人
1月18日 (日)	コンサートvol.8 「ma*marc」マ*マルク	84人
計		1,117人

夏休み子ども教室 「桜井周辺の植物観察・採集」

平成20年8月21日(木)

講師 中村卓二氏



初年度の事業といたしましては、特別企画展「吉田初三郎と島本」、新春「しまもとの郷土かるた」原画展、「むかしのくらし」展を開催し、歴史講演会を3回実施し多くの方々に来ていただきました。夏休みには、島本の植物を調査されている地域の方を講師として、子ども講座「植物採集と標本作り」を実施しました。また、本館固有のレトロな雰囲気を生かしたコンサートを島本音協会のご協力のもと計8回開催し好評を博しました。

入館団体 平成20年度(2008)		
5月17日	NHK文化センター	
5月24日	茨木市都山公民館	
5月24日	三重県津市	
5月27日	長岡京市行政	
5月28日	ロイヤルコミュニケーション俱楽部	
5月29日	NHK文化センター	
5月30日	中久世町歩こう会 ほか	8団体
6月8日	和泉市文化協会 詠吟の会	
6月7日	東大阪市四季の会	
6月11日	ユニライフ年長者クラブ	
6月15日	茨木市シルバー人材センター	
6月20日	神戸歴史探訪クラブ	5団体
7月9日	大阪府老齢者大学 高槻	
7月17日	悠遊クラブ	2団体
8月1日	町教研 社会科部会	1団体
9月2日	高槻市	
9月18日	悠遊クラブ	
9月25日	小阪カルチャースクール	
9月27日	高槻市文化財スタッフの会 ほか	5団体
10月2日	島本町年長者学級	
10月4日	第四地区いきいきサロン	
10月7日	長岡京市ふるさとガイドの会	
10月11日	幡	
10月15日	兵庫県遊歩会	
10月19日	奈良交通株式会社主催の詩吟の会	
10月24日	茨木市文化財愛護会	
10月25日	楠公歌の会	8団体
11月9日	ユニハイム自治会	
11月19日	ふせいクラブ	
11月21日	近畿労働金庫 ほか	4団体
12月6日	サークル山歩	1団体
1月22日	町立第二小学校 3年生	
1月24日	大阪府老人大学 ハイキングクラブ	
1月27日	町立第三小学校 3年生	
1月31日	まちかど探検クラブ	4団体
2月4日	高槻ゆうあいセンター	
2月5日	町立第四小学校 3年生	
2月5日	朝日カルチャーセンター	
2月24日	野洲市行政	
2月26日	町立第一小学校 3年生	5団体
3月10日	高槻市障害者福祉センター	
3月17日	高槻市コミュニティー市民会議	
3月21日	茨木市立文化財資料館	3団体

年間 46団体入館

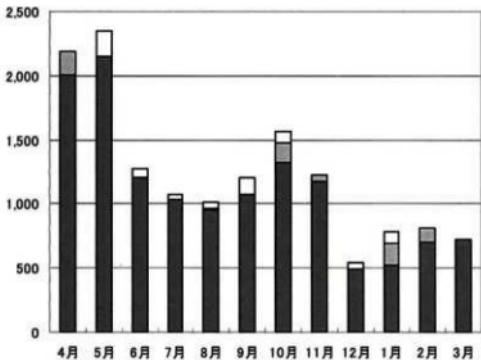
日誌抄録 平成20年度(2008)		
4月12日	開館記念式典	
4月19日	開館記念講演会 水野正好氏 「天平の時代と鳥本」	
4月22日	ケーブルテレビJCOM取材	
5月18日	開館記念コンサート 「カルテット・ウォルфи」弦楽四重奏	
5月25日	三川ふれあい交流イベント	
6月15日	第2回コンサート「ゆりの花コラス」	
7月4日	七夕の笛設置(～8日)	
7月13日	第3回コンサート「ザ・サウスパーキング」	
7月31日	NHK大阪取材	
8月7日	ケーブルテレビJCOM取材	
8月10日	第4回コンサート クラシックギター演奏	
8月20日	NHK大阪取材	
8月21日	夏休み子ども講座 ケーブルテレビJCOM取材	
9月14日	第5回コンサート 「K-スクウェア」マリンバ&シンセサイザー	
9月30日	資料館ボランティア講座第1回	
10月5日	第6回コンサート「花音(カノン)」デュエット	
10月7日	資料館ボランティア講座第2回 「島本町の自然を学ぶ」中村卓二氏	
10月21日	資料館ボランティア講座第3回	
10月25日	講演と歌の集い 田辺眞人氏 「関西の地勢と湊川の戦い—桜井から神戸へ」 楠公歌の会、島本町立第三小学校PTAコーラス	
11月1日	特別企画展開催(～12/28) 「吉田初三郎としまもと」	
11月11日	第二中学校職場体験学習(～14日)	
11月16日	教育週間特別講演 森郁夫氏 「攝津の古代寺院と瓦」	
11月25日	資料館ボランティア講座第4回	
12月4日	消防点検	
12月9日	資料館ボランティア講座第6回	
12月11日	消防訓練	
12月17日	ケーブルテレビJCOM取材	
12月21日	第7回コンサート クラシックギター演奏	
1月6日	企画展開催(～2/1)「しまもと郷土かるた原画展」 「ma*marc マ*マルク」フルート、ピアノ、ソプラノ	
1月18日	第8回コンサート	
1月21日	企画展開催(～3/1)「むかしのくらし展」	
1月28日	ケーブルテレビJCOM取材	
2月3日	摄津水都信用金庫発行情報誌「cold」取材	

利用状況

平成20年度入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般入館者数	2,012	2,012	1,201	1,036	954	1,076	1,323	1,172	490	527	699	719	13,357
講演会等受講者	174	0	0	0	7	0	150	57	0	170	118	0	676
コンサート入館者数	0	204	76	42	52	130	95	0	56	84	0	0	739
総入館者数	2,186	2,352	1,277	1,078	1,013	1,206	1,568	1,229	546	781	817	719	14,772

入館者数(人)



たくさんの方より **寄託・寄贈** を受けました。ありがとうございました。

書籍、手習い帳、碑文、桜井駅跡・楠公関係資料 等 33点

楠公焼、昭和の生活用具、民具、堤燈、カメラ 等 23点

展示用パネル 2点

受入れ図書

発行	刊行物名	発行	刊行物名
能勢町教育委員会	平成19年度能勢町埋蔵文化財調査概要 第26冊	発行	文野市の指定文化財
阪南市教育委員会	阪南市埋蔵文化財報告42 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXV	茨木市文化財事業団	文化財シンポジウム記録集 純鐸の謡を知る
東大阪市教育委員会	-昭和47年170年古文書文庫編に伴う 虹虎川道跡第62-63 伏見御園調査報告 大阪市立水道事業開発 先駆調査概要報告 -平成19年版-	大阪市	大阪城天守閣「平成の大改修」写真集 大阪考古名所圖書 一張良名所函会に見る大阪の遺跡
	東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要-平成19年度- 若江道跡第85次発掘調査報告	大阪府教育委員会	大阪府教育委員会文化財調査事務所年報12 泉州地域の並踊り
港区教育委員会	石見津井野藩津井家歴跡追跡発掘調査報告書 筑前秋月藩黒田家歴跡追跡発掘調査報告書 筑前福岡藩黒田家歴跡第2道跡発掘調査報告書 播磨赤穂森家歴跡追跡発掘調査報告書 港区埋蔵文化財調査年報5 -平成18年度の調査他- 港区埋蔵文化財調査年報6 -平成19年度の調査他- 芝町田五丁目町屋跡追跡発掘調査報告書38 東京都指定史跡「鬼塚」発掘調査報告書 港区内外宮市江戸築造跡発掘調査報告書46 開奥塙同藩邸家屋敷跡追跡発掘調査報告書 妙空院跡-妙玄門前町屋跡追跡発掘調査報告書	貝塚市教育委員会	かいづか文化財だより チンプス 35号
八尾市教育委員会	高安古墳群 分布・測量調査報告書 八尾市内道跡平成19年度発掘調査報告書	柏原市立歴史資料館	柏原市立歴史資料館 錦絵 第20号-2007年度-
八幡市教育委員会	第47集 大津川河床跡第19次発掘調査報告書 -一岩清水八幡宮門前町の調査-	柏原市立歴史資料館 ゴンドラ No.5	平成20年度柏原市企画展 大和川つけかえとその後
八幡市教育委員会	第48集 女郎花道跡第9次発掘調査報告 第49集 宮ノ背西道跡(第2次)発掘調査報告 第50集 美濃山道跡(第2次)発掘調査報告 第51集 平成19年度 国庫補助事業 発掘調査報告	岸和田市教育委員会	岸和田市立歴史資料館 大和川の歴史と文化
池田市立歴史民俗資料館	OB特集展 「~支える街道と朱印~」	北大阪ミュージアム・ネットワーク実行委員会	北大阪ミュージアム・ネットワーク~地域産業と文化遺産~事業実績報告書
大阪府教育委員会	第37回 日本伝統工芸近畿展	公立大学法人滋賀県立大学人間文化部	人間文化 24号 滋賀県立大学人間文化部研究報告
大阪府立 近つ飛鳥博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	財团法人 大阪府文化財センター	大阪文化財研究 第33号
柏原市立歴史資料館	平成20年度考古学系 黑吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	財团法人 交野市文化財分布地図(改訂版)	交野市立研究紀要21号 「鹿小寺」
岸和田市教育委員会	企画展 古絵図にみる岸和田	交野市立歴史資料館	交野市立文化財分布地図 北河内の古墳
大阪府立弥生文化博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	平成19年度交野市文化財調査資料 北河内の古墳
高槻市立歴史博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	財団法人 伝統工芸活性化協議会	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター梗概 ○ UTLINE
柏原市立歴史資料館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	伝統文化NO. 29、30	伝統文化NO. 29、30
岸和田市教育委員会	企画展 古絵図にみる岸和田	財団法人 日本ユネスコ協会連絡会	世界遺産年報 2009N. 14
財団法人 郡府埋蔵文化財調査研究センター	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	財団法人 地域活性化協議会 大阪府立歴史博物館	第五十回記念 大阪新能
高槻市立歴史博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	柏原市立博物館	柏原市立博物館だより 第32号-第36号
東京都立足立町教育委員会	OB特集展 「~支える街道と朱印~」	足立町史 民俗編	足立町史 民俗編
大阪府立近つ飛鳥博物館	第37回 日本伝統工芸近畿展	大東市教育委員会	だいとう学 DVD
大阪府立弥生文化博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	大東市立歴史博物館	シボウジム 平野屋新田会所 その歴史と意義を考える -新田開拓と会所- 発表会旨意
高槻市立歴史博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	高槻市教育委員会	豊田開拓と会所- 平野屋新田会所跡 -会所跡と新田開拓の遺産を訪ねて-
柏原市立歴史資料館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	大東市立歴史文化分布図	大東市立歴史文化分布図
岸和田市教育委員会	企画展 古絵図にみる岸和田	高槻市教育委員会	古代の街に接戦! 石棺復元体験への手引き一二上山白石橋
財団法人 郡府埋蔵文化財調査研究センター	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	帝塚山大学附属博物館	織体天皇の時代 帝塚山附属博物館
高槻市立歴史博物館	平成20年度考古学系 黒吉寺からみた古代の女性 妃玉主 单弥呼の撮影	高槻市文化財年報 平成17-18年度	高槻市文化財年報 平成17-18年度
高槻市立歴史博物館	古代の匠に挑戦 -平成18-19年度 石棺復元体験券の販売	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報 I
帝塚山大学附属博物館	帝塚三島の遺室 -考古資料精選-	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報 II
帝塚山大学附属博物館	帝塚三島の古代に挑戦 帝塚三島の遺室 -考古資料精選-より	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報 III
帝塚山大学附属博物館	帝塚三島の古代に挑戦 帝塚三島の遺室 -考古資料精選-より	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報 IV
東大阪市立郷土博物館	平成20年度 特別展示 丹波とそのそく	東京大学史料編纂所 科学研究費助成金基礎研究(A)	庄園被服の史料学とデジタル画像解析の発展的研究
守口市教育委員会	佐太神社 紙本著色天神鏡起絵巻	豊中市教育委員会	大阪府豊中市所在 泉日大社 南郷郡代 今西氏屋敷 -今にいきばく(中世莊官屋敷)-
八尾市教育委員会	やおの古墳時代 -古式土師器のうつりかわり- やおの古墳時代 II -5-6世紀の土器のうつりかわりと進化-	人間文化研究機構 国立民族学博物館	人間文化研究機構 国立民族学博物館 月刊みんぱく 2008年11月号-3月号
大阪府教育委員会事務局 文化財保護課	大阪府 指定文化財一覧	藤井寺教育委員会	藤井寺の遺跡ガイドブック版15 百大古墳の時代をめぐる
港区教育委員会	港区指定文化財	港区教育委員会	研究紀要10 平成19年度
和泉市教育委員会	和泉市史記要第15集 朝鮮万町村旧記『俗邑録』 和泉市歴史2 松尾寺の歴史と松尾寺	港区立港郷土資料館	『資料館だより』62号, 63号 港郷土資料館年報 -25- 平成18年度版(2006年度版)
八尾市教育委員会	八尾市文化財紀要13 高安古墳群の基礎的研究 やおの歴史遺産 高安古墳群歩き	八尾市教育委員会	八尾市文化財紀要13 高安古墳群の基礎的研究 やおの歴史遺産 高安古墳群歩き

○ 島本町立歴史文化資料館設置条例

平成15年10月10日

条例第17号

(設置)

第1条 郷土を中心とした歴史、考古、民俗等に関する資料（以下「資料」という。）を展示し、及びその活用を図り、住民の郷土理解と文化的向上に資するため、島本町立歴史文化資料館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 島本町立歴史文化資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

(1) 名称 島本町立歴史文化資料館

(2) 位置 島本町桜井一丁目3番1号

(事業)

第3条 島本町立歴史文化資料館（以下「資料館」という。）は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。

(2) 資料の調査及び研究に関すること。

(3) 資料の展示及び利用に関すること。

(4) 資料に係る講習会、研究会等に関すること。

(5) その他教育委員会が必要と認める事業

(開館時間及び休館日)

第4条 資料館の開館時間及び休館日は、教育委員会が定める。

(職員)

第5条 資料館に、館長その他必要な職員を置くことができる。

(入館の制限)

第6条 教育委員会は、管理上必要があると認めるとときは、入館を制限し、又は退館を命ずることができる。

(委任)

第7条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、規則で定める日から施行する。

(施行の日 = 平成16年4月1日)

○ 島本町立歴史文化資料館設置条例施行規則

平成17年3月31日

教委規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、島本町立歴史文化資料館設置条例（平成15年島本町条例第17号）の施行について必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 島本町立歴史文化資料館（以下「資料館」という。）に、次の職員を置く。

- (1) 館長 1人
- (2) その他の職員 若干人
- (職務)

第3条 資料館の館長は、教育長の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督して、資料館の任務の達成に努める。

2 その他の職員は、館長の命を受け、事務に従事する。

(開館時間)

第4条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、島本町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認めるときは、これを短縮し、又は延長することができる。

（平20教委規則2・一部改正）

(休館日)

第5条 資料館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、休館日を変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 毎週月曜日（月曜日が国民の祝日にに関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日の場合は、その翌日）

(2) 12月29日から1月3日までの日（前号に掲げる日を除く）

(3) 特別展示及び企画展示等の準備のため教育委員会が必要と認める期間

（平20教委規則2・一部改正）

(研究)

第6条 資料館の資料について特別の研究をしようとする者は、教育委員会の許可を受けるものとする。

(資料の貸出し)

第7条 資料の館外貸出しは行わない。ただし、教育委員会が適当と認めるときは、この限りでない。

2 資料の館外貸出しを受けようとする者は、館外貸出許可申請書（様式第1号）を教育委員会に提出し、その許可を受けるものとする。

3 教育委員会は、資料の館外貸出しを許可したときは、館外貸出許可書（様式第2号）を交付するものとする。

4 資料の館外貸出しの期間は、1箇月以内とする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、資料の利用の制限、入館制限、又は退館を命ぜることができる。

(1) 他の利用者に迷惑をかけ、又はかけるおそれのある者

(2) 建物、附属設備又は資料をき損するおそれのある者

(3) 前2号の規定にかかわらず、資料館の使用に関し教育委員会の指示に従わない者

(損害賠償)

第9条 利用者は、資料館の資料、設備、備品、器具等を紛失し、又は損傷した場合は、現物又は相当の代価をもって弁償しなければならない。ただし、避けることができない事故その他やむを得ない事情によるものであると教育委員会が認めるときは、この限りでない。

(資料の寄贈及び寄託)

第10条 資料館は、資料の寄贈又は寄託を受けたときは、他の資料と同様の取扱いにより一般の利用に供することができる。

2 資料の寄贈又は寄託をしようとする者は、資料寄贈申込書（様式第3号）又は資料寄託申込書（様式第4号）を教育委員会に提出するものとする。

3 教育委員会は、資料を受け入れたときは、寄贈者に対して資料受領書（様式第5号）を、寄託者に対しては資料受託書（様式第6号）を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、前項の資料受託書と引換えに返還するものとする。ただし、当該資料が貸し出されている場合は、その返却を受けた後に、受託者に返還するものとする。

(委任)

第11条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月3日教委規則第2号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

島本町立歴史文化資料館 館報 第1号
平成20年度版（2008）

発行 島本町教育委員会

〒618-8570

大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

TEL 075-961-5151

発行日 平成21年12月

印 刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093

京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300

TEL 075-256-0961

